第43回企画部会 議事録

1 日 時 令和7年7月22日(火) 16:47~17:13

2 場 所 総務省第二庁舎7階大会議室及びWeb会議

3 出席者

【委員】

椿 広計(部会長)、津谷 典子、會田 雅人、清原 慶子、久我 尚子、佐藤 香、白塚 重典、菅 幹雄、富田 敬子、櫛 浩一、福田 慎一、二村 真理子、松村 圭一

【幹事等】

総務省政策統括官(統計制度担当)、内閣府大臣官房立案総括審議官、
日本銀行調査統計局参事役

【審議協力者】

東京都総務局統計部長

【事務局(総務省)】

統計委員会担当室：谷本室長、赤谷次長

政策統括官(統計制度担当)：阿南総務省大臣官房審議官
植松統計企画管理官

4 議 事

令和6年度統計法施行状況に関する審議について

5 議事録

○椿部会長 それでは、改めまして、ただ今から第43回企画部会を開催いたします。

早速議事に入らせていただきます。先ほど統計委員会の最後におきまして、令和6年度における統計法施行状況の報告及びその審議について、企画部会に付託されたところです。

まずは、統計法施行状況について、各府省の統計調査等の実施状況、あるいは公的統計基本計画の推進状況などを総務省政策統括官室から御報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○沼川総務省政策統括官(統計制度担当)付統計企画管理官室企画官 総務省政策統括官室です。

先ほど第219回統計委員会において、委員会資料7のとおり、総務大臣から統計委員会に対して、令和6年度の統計法施行状況について御報告いたしました。本日は、その概要につきまして、お手元の資料1の「令和6年度統計法施行状況報告の概要」にて簡潔に御説明いたします。

なお、先ほど申しました報告書の冊子である、統計委員会資料の資料7、正確には資料7の「別添」ですが、こちらも適宜御参照いただければと思います。

それでは、お手元の資料1の表紙をおめくりいただきまして、1ページ目の「1. 令和6年度統計法施行状況報告の構成」を御覧ください。

白丸(○)の1番目、この報告は、統計法55条の規定に基づきまして、毎年度の同法の施行状況に関し、

各府省等の報告を総務省において取りまとめて、その概要を記述したものであり、インターネットを通じて公表するとともに、統計委員会に報告するものであります。また、この施行状況報告の取りまとめの中で、公的統計基本計画の推進状況のフォローアップを併せて行っております。

白丸（○）の2番目、令和6年度の施行状況報告は、令和5年3月閣議決定である第Ⅳ期の基本計画が開始されてから2度目、今回は2年度目の取りまとめとなるものです。

その下の「令和6年度施行状況報告」、報告書冊子の方の構成ですが、3部構成で取組状況を掲載しているところ、このスライド下半分にも構成図をお示ししておりますとおりでありますが、これは前回の報告と同様です。第1部は令和6年度における主な統計行政の動きを概括したもの、第2部は基本計画の内容や進捗状況について各府省の報告を取りまとめたもの、そして、3つ目の第3部は、公的統計の作成、統計情報の提供でありますとか、調査票情報等の利用及び提供、統計リソースの確保・人材育成等々の各種状況を取りまとめたもの、とそれぞれなっております。

1枚おめくりいただきまして、2ページ目の「2. 令和6年度における統計行政の主な動き」を御覧ください。こちらは、令和6年度施行状況報告冊子の第1部と同じタイトルであり、5つの項目につき、その年度のトピック、概要という形でこのスライドでは記載をさせていただいております。

なお、報告書冊子の方では、3ページ目以降に、この5つの項目について詳細を記載しておりますので、後ほど併せて御参照いただければと思います。

まず、1としまして、先ほど統計作成プロセス部会の審議状況報告でもありましたが、PDCAサイクルによる公的統計の品質確保の取組を記載しております。各府省が統計調査実施後に行う事後検証である点検・評価、そしてその点検・評価とは車の両輪の取組である、第三者診断である総務省の統計作成プロセス診断、いずれも全体で見れば、令和6年度は5年度を大きく上回るペースで精力的に実施されておまして、また、これらを通じて把握した改善事例や好事例は、総務省から各府省に共有し横展開を図るなど、政府全体での品質向上の好循環が形成されるよう、取組を進めているところです。

次に、2としまして、5年に一度、西暦の末尾が原則0と5の年を対象年として、10府省庁の共同事業として作成する産業連関表ですが、2020年、令和2年産業連関表を令和6年6月に公表したところです。

これにより我が国の経済構造を俯瞰できるほか、経済予測やGDP推計等にも利用されているこの産業連関表、今回の作成対象年である2020暦年は、御存じのとおり、第1回目の緊急事態宣言の発出を始めとする、いわゆる一連のコロナショックが発生した年であり、これにより、例えば、運輸、飲食・宿泊などの部門への影響が顕著となるなど、財・サービスの生産状況や産業相互間の取引状況など、当時の全体の状況がつまびらかになったところです。

次に、3としまして、5年ごとの大規模周期調査である令和6年度経済センサス - 基礎調査が昨年6月に実施され、その後、今年、令和7年5月に速報集計結果が公表されており、我が国の全産業分野における事業所・企業の基本的構造を明らかにするとともに、事業所・企業を対象とする各種統計調査の基盤となる情報の整備に活用しているところです。

次に、4としまして、統計に係る国際貢献の一環として、我が国は、国連統計委員会の委員国を1962年以降ずっと、途中70年から72年までの3年間を除き、60年近くにわたり継続して務めてきたところですが、去年、令和6年4月の国連経済社会理事会における一部改選の結果、我が国も引き続き再選され、令和10年まで委員国を務めることとなったところです。

また、その後、令和7年3月の国連統計委員会では、国民経済計算の新たな国際基準である2025 SNA

や、SDGグローバル指標の枠組みの包括的な見直し等について、活発な議論が行われたところですが、我が国からも検討すべき課題や我が国の取組等に係る発言を行うなど、同委員会での決定に至るまでの議論に参画、関与しましたところ、今後とも委員国として国連統計委員会等の諸活動に積極的に貢献していく所存であります。

最後に5としまして、これまで調査所管府省庁ごとだった、公的統計における調査票情報（個票データ）の提供（二次的利用）に係る手続について、この迅速化・円滑化の取組として、今年、令和7年3月末から、miripo（マイクロデータ利用ポータルサイト）上に、e-Micro（マイクロデータ利用電子申出窓口）を開設して、受付窓口の一元化、及び申出から利用後の報告までの一連の手続の集約を図るとともに、リモートアクセス方式による調査票情報の提供も開始したところです。

1枚おめくりいただきまして、資料の3ページ目を御覧ください。こちらは、報告書冊子で言いますと、第2部として、基本計画の推進状況、つまり、第IV期基本計画の別表に記載された内容、5年間の計画期間内に講ずる具体的施策について、令和6年度末時点の検討状況または進捗状況を整理したものです。

報告書の冊子の方では、10ページ以降に、うち、一部の主な取組実績に係る概要等を記載しており、そして、77ページから117ページまでの約40ページにわたって、この5年間の計画期間内に講ずる具体的施策、118の事項別の推進状況について、かなり分量が多いのですが、それぞれ記載をさせていただいているところです。

本資料、今御覧いただいている概要資料の3ページ目では、それらの具体的措置、施策等の一部を、「令和6年度における主な取組実績」として整理させていただいております。記載のとおり、5項目について、それぞれ、ここでは全体の一部ですが、主な取組実績を取り上げて記載しております。

幾つかかいつまんで御説明しますと、まず、表の一番上、「国民経済計算の精度向上・充実」の一例としましては、右の欄にありますとおり、今年、国連で採択された2025SNAの策定過程において、先ほども申したとおり、意見表明や発言等、積極的に関与しているところです。

2番目の「経済統計の体系的整備の推進」の一例としては、次回、令和8年経済センサス-活動調査の調査事項の見直しについて、SNAのSUT体系移行も見据えて、これに使用する生産物分類への対応として、調査の品目案の策定、これは具体的にはサービス分野の改善と財分野の導入ですが、この策定を行ったところです。

3番目、真ん中の「雇用・労働環境に関する新たな統計の整備等」の一例としては、記載にありますとおり、毎月勤労統計調査について、記載のとおり、母集団労働者数の推計方法の見直しであるとか、季節調整法の見直しなど、更なる結果精度の向上を目指した調査の改善を図ったところです。

4番目と5番目も、一例として記載のとおり、4番目は「調査票情報等の提供及び活用」では、匿名データやオーダーメイド集計について、提供する統計調査の年次を追加するなど充実させたり、一番下の5番目、「地方公共団体との連携・支援」では、統計の品質確保・向上に資する情報の提供・横展開を図ったり、などしているところです。

これら5項目に係る主な取組実績の詳細につきましては、報告書冊子の10ページから12ページにかけても記載しておりますので、併せて御参照いただければと思います。

1枚おめくりいただきまして、4ページ目を御覧ください。こちらは、報告書冊子では第3部に相当するものとして、第IV期基本計画の項目ごとに実施状況の概要について整理をしたものになります。報告

書冊子では19ページ以降に、本文は60ページ近くにわたっておりまして、これに資料編も含めると90ページにわたって、かなり分量が多いのですが、それぞれの項目について記載をしております。

本資料、御覧いただいている概要資料の4ページ目では、その中から幾つかかいつまんで紹介させていただいています。「令和6年度における取組の関連指標」の一覧表ですが、縦列の、表の右端から2列目の「令和6年度」の列が今回報告の実績、右端の「令和5年度」の列は、比較のための参考情報、前回実績となります。

表左側の、太字で濃い青色の背景色の行である大項目レベルの紹介で恐縮ですが、上から、「公的統計の作成」であったり、次の「統計情報の提供」の状況、この中には御覧のとおり、若干下の方に「e-S t a tの統計表アクセス件数」があったり、その下では「調査票情報等の利用及び提供」の状況、そして次の「公的統計の品質確保・向上」に係る各種取組の状況、その次は「オンライン調査の推進」状況、そして一番下の「統計作成の効率化」に向けた取組状況、これは統計作成に当たっての、行政記録情報やビッグデータの活用状況等々ですが、以上、基本計画の取組状況のフォローアップのため、公的統計の整備について全体の状況を俯瞰できる指標などを掲載させていただいているところです。

いずれの指標も、御覧のとおり、前回報告時から若干の数値の上下動はありますが、総じて、水準に大きな変更はなく、あるいは、私が申し上げるのも大変僭越で恐縮ですが、指標によっては、例えば、e-S t a tの統計表アクセス件数であったり、オンライン調査の導入率やオンライン回答率、あるいは、点検・評価の実施件数、あるいは、政府機関の統計業務資格である統計データアナリスト・アナリスト補の認定数等々、指標によっては比較的堅調に推移、進捗している取組も少なくないのではないかな、とも思われる状況と認識しているところです。

最後、スライドをおめくりいただきまして、資料の5ページ目ですが、こちらは参考資料であり、上の方の記載は、第IV期の公的統計基本計画の構成、そして、下の図は、統計法施行状況報告による基本計画の推進と評価の仕組みや枠組み、そして、統計委員会の権能について整理したものとなっております。こちらは参考としていただければと考えております。

少し長くなり恐縮ですが、事務局からの説明は以上です。

○樫部会長 御説明ありがとうございました。

それでは、ただ今の御報告につきまして、何か御質問等あれば、よろしく願います。

松村先生、よろしく願います。

○松村委員 御説明ありがとうございました。最後に言及のあった4ページ目の数値のところですが、統計情報の提供のところではe-S t a tのアクセス件数ですが、5年から6年について、顕著というか、かなり激増していますが、この背景や要因をどのように分析されているのかという質問が1点目です。あと、もう1点は意見になりますが、その下の方のオンライン調査の推進について、今、一生懸命オンライン回答率を上げるということでやっておられて、恐らく足元ではこういった数値を追っていくというのがまずは今の段階だと思います。先ほど清原先生から御報告のあったデジタル部会での取りまとめの中でも、今後、疑義照会の件数や督促件数の増減などを見ながら、業務の効率化とか正確性向上にどのぐらい寄与しているのかという指摘もあったと思います。先々になると思いますが、そういう視点も踏まえて見ていかれるのが重要かと改めて思いました。

○樫部会長 どうもありがとうございます。

1点、質問をまず承りました。

○沼川総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官室企画官 総務省政策統括官室です。ご質問とご意見の2点をいただきました。ありがとうございます。2点目のご意見の方は承知いたしました。

1点目の、e-S t a tの統計表アクセス件数の増加についてですが、こちらは、大変恐縮ながら、担当の方ではこのアクセスログを取得している状況で、詳細な要因分析までは特段行っていないと聞き及んでいるところですが、考えられることとしては、担当者から聞いたところでは、昨年度等は、e-S t a tを広めることも目的に、地方自治体への講師派遣の際にe-S t a tの紹介を行ったり、自治体総合フェア等々のイベントにおいて、この周知活動も積極的に行ったりしていると聞き及んでいるところ、そういった周知のための努力も、ある程度、件数増加に寄与・影響している可能性もあるのかな、と考えているところです。

○樫部会長 松村先生、いかがでしょうか。

○松村委員 ありがとうございます。非常に前向きな結果が出ているものについても、そういったよい事例の分析をしていただいて、今後にぜひつなげていただければと思います。よろしくお願いします。

○沼川総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官室企画官 貴重な御指摘ありがとうございます。e-S t a tの今後の展開につなげるためにも、利用実態の的確な把握や要因分析は有用と考えていますので、これらに努めていけたら、と存じます。承知いたしました。

○樫部会長 どうもありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。福田先生の手が挙がっております。福田先生、よろしくお願いします。

○福田委員 e-S t a tの話が出たので、私からも若干関連する御質問をさせていただきます。e-S t a tは私もしょっちゅう使っておりますが、それとは別に統計ダッシュボードというのが総務省から公表されていて、これは使い勝手がいい、分かりやすいといえば分かりやすいのですが、それとe-S t a tとのすみ分け、あるいは統計ダッシュボードとこの統計委員会の関連というのはどういうふうに位置付けられているのか、あまり理解していないので、もし整理されているのであれば、教えていただくと助かります。

○沼川総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官室企画官 御質問ありがとうございます。総務省政策統括官室です。

御指摘いただきました統計ダッシュボードはe-S t a tの機能の一つであり、前者は後者に含まれる関係と認識しているところです。e-S t a tの機能には大きく3つ、「統計データを探す」、「統計データを活用する」及び「統計データの高度利用」の3つがあります。統計ダッシュボードは、それらの中で2つ目の「統計データを活用する」機能の一部を成しており、いわゆる統計データを検索、ダウンロードするだけでなく、統計データのグラフや地図上への表示であるとか、統計データをより便利に使えるよう、いわゆるグラフ、地図、地域に特化した機能を提供するという、1つ目の「統計データを探す」から一歩進んだ機能と承知しているところです。こちらについても今後利用拡大が見込まれますので、より使いやすいものとなるように、そこはもろもろ改善を図っていただけるとな、と考えているところです。すみません。お答えになっておりますでしょうか。

○福田委員 例えば、さっきのe-S t a tのアクセス件数に統計ダッシュボードのアクセス件数というのは含まれているのですか、含まれていないのですか。

○沼川総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官室企画官 いわゆるこの、令和6年度の約6,653万件や令和5年度の約3,487万件というのは、単純に「統計表ダウンロード件数」になりますので、

おっしゃるとおり、基本的には、e - S t a tの統計表アクセス件数に、統計ダッシュボードの件数は含まれていないと考えております。

○福田委員　そういう統計も分かるような、今回はそれでももちろんいいのですが、今後、統計ダッシュボードが非常に使いやすくて、利用も広がるので、その利用状況とかも含めて何か御報告いただけるといいのかなと思います。

○沼川総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官室企画官　承知いたしました。こちら、e - S t a tの今後の展開につなげるためには、利用実態の的確な把握は有用と考えていますので、統計表ダウンロード件数だけでなく、データベース利用件数とか、A P Iリクエスト件数とか、いろいろなものが詳細に分かるように努めていけたら、と考えております。

○椿部会長　どうもありがとうございました。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、ただ今の報告を踏まえて、統計委員会における審議の具体的な進め方及び審議事項について審議させていただきたいと思っております。

部会長として、事務局に指示して、お手元の資料2のとおりまとめましたので、この場で提案させていただきます。

それでは、これに関しまして、事務局から説明をよろしくお願いたします。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　統計委員会担当室です。

資料2-1を御覧いただければと思います。令和6年度統計法施行状況に関する審議についてというペーパーです。

基本的な考え方ですが、ここに書いてあるとおりのところで、2パラを御覧いただきたいと思っております。今年度の統計法施行状況については、効率的かつ重点的な審議を行って、その審議内容をより意義のあるものとするために、重要事項を絞り込んだ上で審議を行うこととしたいという考えです。

2番に審議の具体的な進め方というのが書いてありますが、まず、方法及びスケジュールです。7月と書いてあるのは、これは本日の審議のことです。令和6年度の報告、そして、審議について企画部会に付託、これは既にされましたというところです。そして、施行状況についての報告、これも今あったところです。そして、審議の具体的な進め方及び審議事項の決定、これが今の議題です。

それを踏まえて、8月においてヒアリングを行い、9月に取りまとめを行うというスケジュールを想定しております。

審議事項を重点的に何とするかというところですが、令和6年度は第IV期基本計画の2年度目に相当いたします。なので、これまでの審議内容を踏まえつつ、有意義かつ効果的な審議を行う観点からということで、この2点の条件に合致するものを選定するというところで、資料の2-2の方に、公的統計の整備に関する事項の進捗状況を網羅的に記載しておりますが、その中からこの条件2点に合致するものを選定するというところで考えております。

まず1点目、実施時期が令和5年度（2023年度）または令和6年度（2024年度）からとされているものということで、実際に取組が始まっているものに限定しようということですが。

そして、2点目、各府省における取組が進捗しており、かつ統計委員会（分科会及び部会を含む）における審議が過去2年間行われておらず、今後も予定されていないものということで、ほかにこの案件について審議する場が統計委員会の周辺ではないというものを選定するというところです。

そうした結果、部会長の指示に基づき、また、委員の先生方にも御相談しつつ、2点選定したというのが資料2-1の別添というところです。

1点目が、総務省の担当する消費動向指数（C T I）です。2点目が、2つ目が観光庁の所管する宿泊旅行統計調査、旅行・観光消費動向調査及び訪日外国人消費動向調査。こちら、最後につきましては、インバウンド消費動向調査として調査を実施しているところではありますが、この2項目につきまして、いずれも何がしかの進捗が見られ、当委員会としても、その施行状況を推進していこうというもので選定をしたというところです。御確認ください。

以上です。

○樫部会長 御説明ありがとうございました。

この審議事項につきましては、事前に委員の先生方に意見を伺ったところですが、特段の御意見はなかったと承知しております。

また、限られた時間による審議を考慮して、今回の審議事項は2件に絞らせていただきました。

それでは、ただ今の事務局からの御説明につきまして、御質問あるいは御意見等あれば、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、令和6年度の統計法施行状況に関する審議についてお諮りいたします。

令和6年度統計法施行状況に関する審議については、資料2-1の案のとおりとさせていただきます。

（「異議なし」の声あり）

○樫部会長 どうもありがとうございます。異議なしと認めます。それでは、案のとおりとさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、次回の部会において、ただ今、御了解いただいた内容に沿って審議を進めたいと思います。いずれも重要かつ関心の高い問題、課題となりますので、皆様方、よろしくお願いいたします。

本日用意いたしました議題は以上となります。

それでは、次回の企画部会の日程について、事務局から連絡をお願い申し上げます。

○谷本総務省統計委員会担当室長 事務局です。次回の企画部会については、日程調整中です。日時、場所につきましては、別途御連絡いたします。委員会、企画部会と、長時間にわたる御審議、誠にありがとうございました。

事務局からは以上です。

○樫部会長 それでは、以上をもちまして、第43回の企画部会を終了したいと思います。

まだ暑い日が続きますので、是非お体を大切に。私も夏風邪でちょっと大変なのですが、お体を大切に、また次回、お会いできればと思います。本日はどうもありがとうございました。